都市計画マスタープランの修正箇所

資料１

第１回改定委員会で頂いたご意見を踏まえた修正箇所は以下のとおりです。

１．道路整備の方針の修正　【５章(P.81)】

意見

（２）交通体系の整備の方針の「①道路整備の方針」について、スマートインターチェンジの整備促進により地域振興の拡大を目指すという記載は、道路整備の方針ではなく、まちづくりの方針ではないか。

対応

第５章「都市整備の方針」での記載を削除し、第６章「地域別構想（東部地域）【第６章（P.147)】」におけるまちづくりの方針にて整理することとする。

５章「都市整備の方針」（２）交通体系の整備の方針　①道路整備の方針

削除

■中央自動車道におけるスマートインターチェンジの整備促進

~~中央自動車道におけるスマートインターチェンジの整備（民間開発）を踏まえ、広域的なネットワークを活かした市東部の地域振興の拡大を目指します。広域的なネットワークを活かした市東部の地域振興拡大に向けて、中央自動車道におけるスマートインターチェンジの設置を検討します。~~

（参考）６章「地域別構想」東部地域　まちづくりの方針（交通体系）

交通体系	
○地域内における道路の整備（(都)犬山春日井線、(都)江南池之内線、(都)北尾張中央道）	③、④、⑥、⑦
○中央自動車道におけるスマートインターチェンジ（民間開発）設置を検討完成後の広域的なネットワークを活かした地域振興の推進	③、⑦
○地域内における歩道の整備	④、⑤、⑥
○地域内における橋りょうの計画的な管理	④、⑥
○集落地等における道路整備（狭あい道路の解消等）	④、⑤、⑥
○地域公共交通の維持	④
○高齢者等の移動をサポートするきめ細かい地域公共交通サービスの検討	④
○公共施設への移動や公共交通の乗り換えを円滑に行うことができるバリアフリー化の促進	④
○桃花台センター地区における交通結節機能の強化	④

２．みどり（公園・緑地等）の方針の修正・追加　【５章（P.85-86)】

意見

①都市農業振興基本計画が策定され、国の方針としても市街化区域の農地の原則保全がうたわれていることを踏まえて、みどりの方針は生産緑地の記述等を加えると良い。市街化調整区域においても営農意向を地図上にプロットして、保全の方向性を検討することが考えられる。

②現在の社会潮流としては、グリーンインフラは不可欠とした扱いであることを踏まえて、みどりの方針は記載すると良い。

対応

①都市農業振興基本計画を踏まえた「農地の保全」の方針を修正、及び生産緑地の記載を追加

②グリーンインフラ及び生物多様の観点を踏まえた方針の追加

■農地の保全

市街化調整区域に広がる優良な農地の保全を図るとともに、市街化区域に残る農地についても、営農者の意向に対応した保全を図ります。

また、耕作放棄地の発生防止・減少と農地の利活用を図ります。

■農地の保全

修正

~~市街化調整区域に広がる優良な農地の保全を図るとともに、市街化区域に残る農地についても、営農者の意向に対応した保全を図ります。~~

~~また、耕作放棄地の発生防止・減少と農地の利活用を図ります。~~

市西部の市街地南北や河川沿いに広がる農地は、農業生産の場としての機能のほか、雨水を一時的に蓄える貯留機能など、様々な機能を備えています。市街化区域内にある生産緑地は年々減少傾向にありますが、緑の少ない市街地にあって貴重な緑であり、生産緑地法の一部改正により創設された特定生産緑地の周知を図り、生産緑地地区の農地等を安定的に継続していくために、引き続き適正な保全を図ります。

追加

■グリーンインフラの充実

自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得るため、良質なグリーンインフラの確保、充実を図ります。

追加

■生物の生息・生育の場としての緑の保全

面的に広がる緑は生物の多様な生息・生育環境となるとともに、河川や緑道などの線的な緑は、生物の重要な移動経路となることから、面的、線的な緑を効果的に確保するために、樹林地や農地、河川などの水辺の緑の保全を図ります。

3．中間評価及び計画の進捗管理に関する方針の修正　【２章（P.63）・７章（P.152-153）】

意見

中間評価について、現在の表は進捗状況の確認であり、計画の評価をしているわけではない。指標の確認後、計画の評価をした上で、課題の見直し、都市づくり目標の方向性について検討するとよい。

対応

①計画期間の中間年次にあたり、都市づくりの目標を実現させるための基本方針について施策の進捗状況を整理するとともに、計画の進捗管理に関する方針に基づき「小牧市まちづくり推進計画 第１次基本計画」で掲げられた指標、基準値に対して実績値を確認し、５つの都市づくりの目標の進捗状況を整理するとともに施策と目標の進捗状況を踏まえた中間評価により新たな課題を整理する。

②現行計画策定以降に改定された「小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画」に基づき、最新となる令和４年度の指標・基準値に更新する。

２章「課題の整理」

（旧）中間評価として各課ヒアリングした達成状況を記載

（新）指標の達成状況の追加、施策及び目標の達成状況を踏まえた中間評価と新たな課題の整理

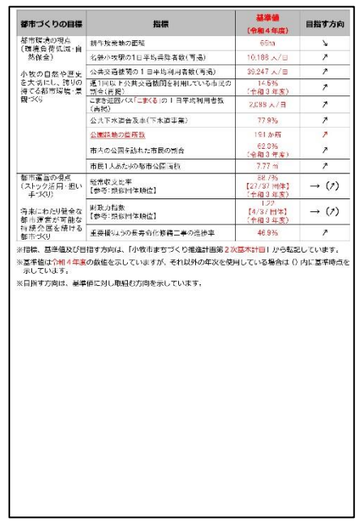
７章「計画の実現に向けて」

（旧）

- 小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画の指標を追記
- 小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画の基準値を“中間値”として記載

（新）

- 中間評価は「２章　課題の整理」に記載
- 小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画の令和４年度時点の基準値に更新



都市計画マスタープランの中間評価

計画期間の中間年次にあたり、都市づくりの目標を実現させるための基本方針について、施策の進捗状況を整理するとともに、計画の進捗管理に関する方針に基づき、「小牧市まちづくり推進計画」で掲げられた指標、基準値に対して、実績値を確認し、５つの都市づくりの目標の進捗状況を整理します。

都市づくりの目標	目標実現のための基本方針	施策の進捗状況	指標の達成状況				課題 （○強みを伸ばす　●弱みを克服する）
			指標	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和３年度）	状況	
【都市構造の視点】 中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型都市づくり	・利便性の高い市街地を中心とした居住の維持・誘導（名鉄小牧線沿線での一層の人口等の集積） ・広域的な都市機能が高度に集積した中心拠点の形成 ・日常的な都市機能が集積した地域拠点の形成（味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区） ・公共交通や徒歩などさまざまな交通手段による連携強化	・立地適正化計画で中心拠点を都市機能誘導区域（高次都市サービス誘導区域）に設定し、広域的な都市機能の誘導・集積を図っている。 ・小牧駅周辺に、こまきこども未来館や小牧市中央図書館を新たに建設した。 ・味岡駅周辺、藤島地区、桃花台地区を地域拠点と設定し、居住の誘導と日常生活に必要な都市機能を誘導・整備を図っている。 ・名鉄犬山線へのアクセスでは、名鉄バス岩倉線が運行している他、こまき巡回バス「こまくる」が、大口町コミュニティバスと連携を図っている。	定住人口	152,816 人	150,684 人	△	○市街化区域における人口密度の維持、上昇 ○市街地内における人口定着に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実 ○鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換 ●現在の市街化区域を基本とした定住促進、都市的低・未利用地の活用等による居住の受け皿の確保 ●中心拠点での既存ストックの改善や土地・建物の有効・高度利用の促進、多様な交流を生み出す都市機能や生活中心地にふさわしい都市機能等の集積強化による本市の「顔」として賑わいの創出・活性化
			居住誘導区域内居住率	71.1%	71.5%	◎	
			居住誘導区域内人口密度	54.3 人/ha	54.0 人/ha	△	
			都市機能誘導区域における誘導施設立地数	42 施設	44 施設	◎	
			中心市街地の歩行者・自転車通行量	6,288 人/12h	5,499 人/12h	△	
			桃花台中心地区の歩行者・自転車通行量	194 人/12h	153 人/12h	△	
			土地区画整理事業の施工区域内の居住人口	8,893 人	9,129 人	◎	
【都市活力の視点】 自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり	・既存工業地における土地利用の適正な誘導 ・中心拠点の活性化 ・新たな産業用地や広域交流拠点の形成 ・活発な産業活動や多様な交流を支える幹線道路網の充実	・工場・物流施設等が集積している市街地を基本に工業地区に位置づけ、工場等の良好な操業環境が確保された市街地の形成を図っている。 ・令和 4 年 3 月に「中心市街地グランドデザイン」を策定し、歩いて楽しい歩道ネットワークの構築に向け、地域住民や訪れた人が立ち寄り、憩い、交流できる公共空間の整備と、民間活力を導入した公園整備の検討及び推進をしている。 ・新たな立地許可基準（小牧市開発行為等の許可の基準に関する条例）により、一定の要件を満たすものに限り、製造業である工場等の立地を可能とする措置を講じている。 ・市道犬山公園小牧線から国道 155 号までの市道小牧駅前線延伸事業は整備を完了した。	交流人口	1,944,102 人	645,013 人	△	○優れた広域交通体系による利便性を活かした工業・物流機能の集積強化 ○充実した就業の場を背景とする若い世代の転入を今後も維持していくための雇用の場の確保 ○既存の観光資源や広域交通体系へのアクセス利便性等を活かした中心拠点や市の東部での交流人口の拡大 ○移動や産業活動の円滑化、生産力の拡大に向けた都市の骨格を形成する幹線道路網の整備・充実 ●工業系用途地域内都市的低・未利用地の活用や土地利用の適正な誘導等による今後の産業立地の受け皿の確保 ●工業等と住宅の混在がみられる地域での居住環境と操業環境双方の悪化防止 ●中心拠点等における商業業務機能をはじめとする第３次産業の集積強化
			市内総生産額	970,200 百万円 （平成 27 年）	1,053,754 百万円 （平成 30 年度）	◎	
			製造品出荷額	1,362,734 百万円 （平成 29 年）	1,457,407 百万円 （令和元年）	◎	
			従業者数（製造業、卸売・小売業）	51,353 人 （平成 28 年）	－	－	
			主要な渋滞発生箇所数	24 箇所	21 箇所	◎	
			都市計画道路の整備率	77.9%	80.7%	◎	
【都市生活の視点】 自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全･安心に暮らせる生活圏づくり	・広く分布した日常生活を支える都市機能の維持 ・集落地等多様な世代の定住促進 ・充実した公共交通網を軸とした移動手段の確保 ・ユニバーサルデザインに配慮した都市空間の形成 ・災害に強い都市づくりや地域防災力の強化	・住居系と工業系の土地利用が混在する地区であり、居住環境に影響がないよう配慮しながら、西部コミュニティセンターを始めとする日常生活に必要な機能を維持している。 ・地域住民の広域的な地域活動の推進を図る拠点施設として、コミュニティセンターに講堂や会議室、調理室、和室などのほか、児童館を併設し、多くの世代の交流の場を設けた。 ・市のコミュニティバスである公共交通の空白地域の解消や公共施設の利用促進等を目的として、こまき巡回バス「こまくる」が運行している。 ・名鉄小牧線の市内各駅については、バリアフリー化が完了した。 ・新川流域水害対策計画で目標対策量が設定され、雨水貯留施設の整備を進めている（令和 4 年度末の進捗率は 72.2%）。	名鉄小牧駅の 1 日平均乗降者数	11,117 人/日	9,465 人/日	△	○日常生活に必要なサービスの維持に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実 ○計画的な市街地形成が図られた地区を中心に、整った都市基盤施設等を活用した良好な居住環境の創出 ●高齢化が進み地域活力の低下がみられる集落地や住宅団地等における日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等による地域コミュニティの再生・活性化 ●車を運転できない高齢者でも容易に都市機能にアクセスできるような公共交通網の維持・効率化 ●都市の防災性強化、空き家の発生抑制や適切な管理の促進による良好な居住環境の創出 ●土砂災害や浸水等の自然災害の危険性の高い区域における防災・減災対策の実施や開発抑制 ●中心拠点をはじめ市内に広く残る老朽建物のほか、多くの市民が利用する公共施設やインフラ施設等の耐震化
			公共交通機関の 1 日平均利用者数	44,094 人/日	35,931 人/日	△	
			週 1 回以上公共交通機関を利用している市民の割合	18.2%	14.5%	△	
			こまき巡回バス「こまくる」の 1 日平均利用者数	2,039 人/日	1,804 人/日	△	
			生活道路の整備率	29.3%	30.0%	◎	
			交差点改良の実施箇所数	1 箇所	4 箇所	◎	
			通学路歩道（歩車分離）整備率	49.9%	50.3%	◎	
			自転車通行帯の整備率	0%	0%	△	
			管路の耐震管率（水道事業）	22.2%	24.6%	◎	
			床上、床下浸水の被害戸数	111 戸 （平成 29 年度）	0 戸	◎	
			準用河川の整備率	23.8%	24.7%	◎	
			雨水整備区域の整備率	7.8%	9.5%	◎	
			雨水貯留施設整備の進捗率	63.2%	65.6%	◎	
			空き家の戸数	363 戸 （平成 28 年度）	665 戸	△	

都市づくりの目標	目標実現のための基本方針	施策の進捗状況	目標の進捗状況				課題 （〇強みを伸ばす　●弱みを克服する）
			指標	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和３年度）	状況	
【都市環境の視点】 小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てる都市環境・景観づくり	・市街地内の貴重な緑、北東部の丘陵地の広域的な緑、歴史的な環境を形づくる緑等の保全と調和 ・公共交通の利用促進 ・水と緑のネットワークの形成 ・小牧山の景観や歴史的な環境やまち並みの保全	・公園内の樹木及び街路樹や、公共空地の花修景花壇により市街地における緑の確保を図っている。 ・こまき巡回バス「こまくる」について、各地区から地域拠点等へのアクセス利便性を向上するため、令和４年３月にルート・ダイヤを改正した。 ・市街地における貴重な水辺空間を、これまで以上に地域住民が快適で安全に活用できるよう、合瀬川等で順次整備を進め、完了した。 ・小牧市都市景観形成重点区域に整備基準を設定し、緑により連担した歴史的趣のある街並を形成するよう誘導している。	耕作放棄地の面積	62ha	59ha	◎	➡ 〇CO_2 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からの利便性の高い公共交通網の維持・効率化 〇身近な公園や緑地を活用した良好な居住環境の創出 〇本市のシンボルとなる小牧山や歴史文化的資源等と調和した美しい都市景観の誘導 ●市街地を取り巻く農地や森林の保全や活用 ●市街化区域内農地の維持・保全や活用等の今後のあり方の明確化
			名鉄小牧駅の１日平均乗降者数（再掲）	11,117 人/日	9,465 人/日	△	
			公共交通機関の１日平均利用者数（再掲）	44,094 人/日	35,931 人/日	△	
			週１回以上公共交通機関を利用している市民の割合（再掲）	18.2%	14.5%	△	
			こまき巡回バス「こまくる」の１日平均利用者数（再掲）	2,039 人/日	1,804 人/日	△	
			公共下水道普及率（下水道事業）	74.9%	77.8%	◎	
			緑被面積	2,759.9 ha （平成 27 年度）	2,704.3ha	△	
			市内の公園を訪れた市民の割合	60.9%	62.0%	◎	
			都市公園の整備率	96.1%	97.6%	◎	
			市民１人あたりの都市公園面積	7.5 ㎡	7.7 ㎡	◎	
【都市運営の視点】 将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり	・道路や公園等の都市基盤施設の効率的な改善・更新 ・公共建築物の施設配置や施設量の適正化 ・公的不動産をはじめとした既存ストックの有効活用 ・市民・民間事業者と協働した都市づくりの促進や新たな担い手づくり	・各施設の長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の補修・更新工事を効率的に推進している。 ・名神高速道路の北側には都市公園がないことから、災害時の一時的な避難場所としての利用が見込める北西部地区公園を計画し、順次整備に向けて事業進捗を図っている。 ・小牧市公共施設適正配置計画（令和４年度改定）に基づき建物の状況や利用状況等を検証し、施設ごとに存続、統合、建替えなどを検討している。 ・市民会館、各市民センターを中心に（一財）こまき市民文化財団と連携して文化事業を実施している。 ・地域子ども食堂、認知症カフェ、こまき山体操などふれあいいきいきサロンのみならず地域福祉の活動拠点の設立支援や開催支援を行っている。	経常収支比率 （参考：類似団体順位）	82.5% （4/19 団体）	88.7% （－）	△	➡ 〇鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換（再掲） 〇安定した財政力、高い工場等の立地ニーズを背景に、さらなる産業立地の促進による安定的な財政収入の確保 ●今後の財政見通し等を踏まえた効率的で効果的な都市づくり ●将来の厳しい行財政状況を見据え、公共施設の維持管理等に対する住民や民間事業者等の協働化の促進 ●老朽化する公共建築物に対し、施設配置や施設量の適正化、長寿命化による更新コストの削減
			財政力指数 （参考：類似団体順位）	1.21 （3/19 団体）	1.22 （－）	◎	
			重要橋りょうの長寿命化修繕工事の進捗率	18.1%	26.4%	◎	

※◎：基準値より改善している指標
△：基準値より改善が必要である指標

都市づくりの目標	中間評価	中間評価を踏まえた新たな課題
都市構造の視点	立地適正化計画に基づき、中心拠点や地域拠点への都市機能の誘導・集積が進められています。また、小牧駅周辺では公共施設の新設が行われ、地域拠点でも居住誘導と必要な都市機能の整備が図られています。引き続き、人口密度の維持・向上や、歩行者・自転車の利便性向上を目指し、更なる都市機能の集約とアクセスの改善が求められます。	・更なる都市機能の集約化による拠点の魅力向上 ・交通アクセス性の強化による生活利便性の向上
都市活力の視点	工業地区を中心に市街地の整備が進められ、良好な操業環境の確保が図られています。また、中心市街地においては、地域住民や訪問者が交流できる公共空間の整備が進められています。引き続き、既存の都市基盤を強化しつつ、地域活性化のためにさらなる民間活力の導入や、都市機能の高度化を図り、多様な交流を育む産業基盤の充実が求められます。	・民間活力の導入による公共空間の魅力向上 ・移動円滑化に向けた更なる幹線道路整備の促進
都市生活の視点	コミュニティセンターが地域住民の活動や交流の場として活用され、地域のつながりが強化されています。また、公共交通やバリアフリー化が進む一方で、公共交通全般の利用者数が減少しています。引き続き、公共交通の利用促進を図るとともに、日常生活機能の維持するために、インフラ整備や災害対策の強化が求められています。	・交通空白地域の更なる解消による移動手段確保 ・空き家戸数の減少に向けた利活用の促進
都市環境の視点	市街地における緑の確保や水辺空間の整備が進み、地域住民が快適に過ごせる環境が整っています。また、都市景観形成重点区域では、歴史的な街並みの保全に取り組んでいますが、耕作放棄地の増加や市全域では緑被面積が減少しています。引き続き、市街地や農地、森林の保全を図るとともに、景観づくりの強化が求められています。	・公園や街路樹などの公共空間における緑の保全 ・環境負荷低減に向けた公共交通の利用促進
都市運営の視点	各施設の長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の補修・更新が効率的に進められています。また、公共施設の適正配置計画に基づき、施設の存続や統合、建替えが検討されており、地域福祉活動の支援も行われています。引き続き、既存ストックの保全や有効活用を図るとともに、市民・民間事業者と協働した都市づくりの促進が求められています。	・既存ストックの利活用による維持・更新費用削減 ・建物・利用状況を踏まえた公共施設の適正な配置

７章．計画の実現に向けて

（２）計画の進捗管理に関する方針

上位計画である「小牧市まちづくり推進計画 第２次基本計画」で掲げられた指標、基準値を用いて、本計画における５つの都市づくり目標の進捗状況を定期的に把握します。

都市づくりの目標	指標	基準値（令和４年度）	目指す方向
都市構造の視点（コンパクト＋ネットワーク） 中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型都市づくり	名鉄小牧線沿線居住人口	88,975 人	↗
	居住誘導区域内居住率	71.5%	↗
	居住誘導区域内人口密度	53.9 人/ha	↗
	都市機能誘導区域における誘導施設立地数	44 施設	↗
	中心市街地の歩行者･自転車通行量	5,817 人/12h	↗
	桃花台中心地区の歩行者･自転車通行量	170 人/12h	↗
	土地区画整理事業の施行区域内の居住人口	9,553 人	↗
都市活力の視点（産業振興･交流拡大） 自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり	交流人口	1,016,317 人	↗
	市内総生産額	1,039,563 百万円（令和 2 年度）	↗
	製造品出荷額	1,316,660 百万円（令和 2 年）	↗
	主要な渋滞発生箇所数	20 箇所	↘
	都市計画道路の整備率	78.1%	↗
都市生活の視点（コミュニティ活性化･安全安心） 自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全･安心に暮らせる生活圏づくり	名鉄小牧駅の1日平均乗降者数	10,188 人/日	↗
	公共交通機関の 1 日平均利用者数	39,247 人/日	↗
	週1回以上公共交通機関を利用している市民の割合	14.5%（令和 3 年度）	↗
	こまき巡回バス「こまくる」の 1 日平均利用者数	2,088 人/日	↗
	狭あい道路の整備率	0%	↗
	渋滞対策の実施個所数（累計）	5 か所	↗
	通学路歩道（歩車分離）整備率	50.4%	↗
	自転車通行帯の整備率	0%	↗
	管路の耐震管率（水道事業）	25.1%	↗
	床上、床下浸水の被害戸数	3 戸	↘
	準用河川の整備率	24.7%	↗
	雨水整備区域の整備率	9.5%	↗

都市づくりの目標	指標	基準値 （令和４年度）	目指す方向
	雨水貯留施設整備の進捗率	72.2%	↗
	管理不全空き家の棟数	27 棟	↘
都市環境の視点 （環境負荷低減・自然保全） 小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てる都市環境・景観づくり	耕作放棄地の面積	65ha	↘
	名鉄小牧駅の1日平均乗降者数（再掲）	10,188 人/日	↗
	公共交通機関の１日平均利用者数（再掲）	39,247 人/日	↗
	週1回以上公共交通機関を利用している市民の割合（再掲）	14.5% （令和３年度）	↗
	こまき巡回バス「こまくる」の１日平均利用者数（再掲）	2,088 人/日	↗
	公共下水道普及率（下水道事業）	77.9%	↗
	公園緑地の箇所数	191 か所	↗
	市内の公園を訪れた市民の割合	62.0% （令和３年度）	↗
	市民1人あたりの都市公園面積	7.77 ㎡	↗
都市運営の視点 （ストック活用・担い手づくり） 将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり	経常収支比率 【参考：類似団体順位】	88.7% 【27/37 団体】 （令和３年度）	→（↗）
	財政力指数 【参考：類似団体順位】	1.22 【4/37 団体】 （令和３年度）	→（↗）
	重要橋りょうの長寿命化修繕工事の進捗率	46.9%	↗

※指標、基準値及び目指す方向は、「小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画」から転記しています。

※基準値は令和４年度の数値を示していますが、それ以外の年次を使用している場合は（）内に基準時点を示しています。

※目指す方向は、基準値に対し取組む方向を示しています。